

SS 研教育環境フォーラム 2022

「大学 DX を支える教育データ利活用の実際と今後の展望」

～ SS 研会員に限らず、どなたでもご参加いただけます～

■ 日時 : 2022 年 9 月 29 日(木) フォーラム 9:00~12:20

■ 場所 : オンライン開催 (ZOOM ウェビナー)

■ 開催趣旨

近年、大学教育においても DX (Digital Transformation) が話題となっており、さまざまな取組が行われるようになっています。

また、教育現場におけるデジタル化も進み、教育・学習に関するさまざまなデータを取得できるようになりつつあり、得られた教育・学習データを教育・学習支援のためにどのように活用していくのか、検討していく必要があります。

今回の教育環境フォーラムでは、大学 DX を支える教育データの利活用を進めていくために必要となる情報を提供することを目的として、教育データの利活用の基本、教育 DX やデータの利活用の先進的な取組やシステムのあり方、憲法の観点から見た教育データ利活用の問題点についてご報告いただき、今後の展望について議論できれば、と考えています。

■ プログラム (予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。)

-敬称略-

8:50~	ウェビナー接続開始
[司会] 久保田 真一郎 (熊本大学)	
9:00~9:05	開催趣旨説明 村上 正行 (大阪大学)
9:05~9:35 講演 25 分 Q&A 5 分	<p>講演 「教育・学習データ利活用ポリシーひな型の策定アップデート 2022」 上田 浩 (法政大学)</p> <p>近年、多くの高等教育機関には、教育・研究・経営を支援する、さまざまな情報システムが導入され、各システムにはログデータが蓄積されるに至っています。こうしたログデータは、「ビッグデータ」というスケールに到達しつつあると推測されますが、統計もなく、一部のデータが限定された目的に使用されるにとどまっています。ラーニングアナリティクスに代表されるように、こうしたデータは異次元の大学改革や教育改善をもたらすものと期待が高まる一方で、その多くがパーソナルデータであるということから、各機関ではその利用に慎重にならざるをえず、改正個人情報保護法でうたわれた適切な利活用と流通には二の足を踏んでいる状況です。本講演は、教育・学習データの利活用ポリシーの海外を含めた動向を紹介し、我が国におけるひな型の策定の取り組みを紹介します。</p>
9:35~10:05 講演 25 分 Q&A 5 分	<p>講演 「香川大学の DX 推進人材育成の取り組み」 八重樫 理人 (香川大学)</p> <p>香川大学はデジタル ONE 戦略を定め、DX 推進に必要な体制を整備するとともに、教職学協働で DX 推進に資する様々な取り組み(業務 UX 調査、業務改善アイデアソン、業務システム内製開発、業務システム開発ハンズオン)を実施している。香川大学の取り組みは、教職員と学生が DX 推進人材となり、自らの手で業務の高度化や効率化などの DX を推進することを意識している。本講演では、香川大学の DX 推進人材育成の取り組むについて発表する。</p>
10:05~10:15	休憩(10 分)

10:15~10:45 講演 25 分 Q&A 5 分	講演 「憲法学からみた教育データ利活用」 堀口 悟郎 (岡山大学) <p>本講演は、憲法学の観点から、教育データ利活用の課題について考察するものである。教育データ利活用は、教育の「個別最適化」を促進することで、能力発達上の必要に応じた教育を受ける権利（憲法 26 条 1 項）の実現に資する反面で、子どものプライバシー権（憲法 13 条）や教師の教育の自由（憲法 23 条）と緊張関係に立つ。教育データ利活用に関する政策や EdTech には、こうした憲法上の問題を予防しうる制度設計（デザイン）が求められる。</p>
10:45~11:15 講演 25 分 Q&A 5 分	講演 「データ利活用・DX を促進するこれからの大学ソリューション」 島田 昌絃 (富士通 Japan 株式会社) <p>大学を取り巻く環境が大きく変化する中、データ利活用や大学 DX の必要性が急速に増している。富士通 Japan が提供を開始した Campus-Xs を始めとした大学ソリューションのコンセプトや導入事例を通して、これからの大学を支えるシステムやサービスの在り方についてご紹介する。</p>
11:15~11:25	休憩(10 分)
11:25~12:15 50 分	パネルディスカッション 「大学 DX を支える教育データ利活用の実際と今後の展望」 [司会] 村上 正行 (大阪大学) <p>[パネリスト] 上田 浩 (法政大学) 八重樫 理人 (香川大学) 堀口 悟郎 (岡山大学) 島田 昌絃 (富士通 Japan 株式会社)</p>
12:15~12:20	閉会挨拶 隅谷 孝洋 (広島大学)

■ 参加方法

開催日前にお申込みいただいた方へ、事務局から参加者用 URL/ID 等をお知らせいたします。

■ ご参加について

- 参加対象：オープン開催（SS 研会員機関以外の方でも、ご参加いただけます）
- 参加費：無料

■ 詳細・お申し込み

SS 研 Web サイトからお申し込み下さい。（9 月 26 日申込受付終了）

<http://www.ssken.gr.jp/MAINSITE/>



【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会（SS 研）事務局

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

富士通（株）官庁第六事業部第二ビジネス部内

Email: ssken-office@ml.css.fujitsu.com

URL <http://www.ssken.gr.jp/MAINSITE/>